

トルコギキョウの8月上旬定植10~11月出し栽培に適した品種

農業研究センター 農産園芸研究所 花き部

担当者：渡邊 功

研究のねらい

トルコギキョウの年内出し栽培は、経費が少なく収益性が高い作型として注目されている。しかし、8月の高温期に定植しなければならないため、切り花長やボリュームの確保が難しい。そこで、8月上旬定植でも草丈やボリュームの確保が容易な品種を選定する。

研究の成果

- 1 8月上旬定植、10~11月採花には、あすかの新雪、エクセルホワイト、リップクリアホワイト3、メロウローズ、あすかの薫、あすかの小桜、つくしの春、あすかの粧、あずまの萌黄、リップルグリーン、ニュースモールバイオレット、ダイヤモンドが適している。
- 2 上記品種は、ロゼットや葉先枯れの発生が少なく、開花も比較的早く、切り花良70cm以上で、輪数が5輪以上である。

普及上の留意点

- 1 6月6日~10日までに播種し、播種直後から冷房育苗もしくは夜冷育苗する。
- 2 育苗には288穴セル成型トレイ深さ4.2cmを用いる。
- 3 緩効性肥料マイクロロングトータル70を育苗用土1リットル当たり4.2g添加すると、育苗中の液肥散布の手間が省ける。
- 4 育苗中の灌水は、ミスト灌水が好ましい。なお、播種前にトレイ中の用土をムラ無く十分湿らせておく。
- 5 定植3週間前から、ハウスを70~80%遮光の寒冷紗で覆い、地温の上昇を迎える。晴天が続くなら定植後1週間位で寒冷紗を取る、曇天が続くようなら早めに取り。
- 6 定植直後から灌水を十分に行い苗の活着を促す。
- 7 各ほ場の条件によっても異なるが、第1花が開花する頃から水をひかえる。
- 8 定植直後から発蕾期まで、定期的に液肥で追肥しボリュームを出す。
- 9 定植が8月中旬にずれ込むと開花が遅れ、花飛びが出やすくなる。

表1 10月～11月採花における供試品種のロゼット率と切り花品質

花型	品種名	ロゼット率(%)	葉先枯株(%)	平均採花日	切花長 cm	茎径 (mm)	節数	輸数	切花重 g
白一重	あすかの新雪	0	0	10/25	69.9	4.9	10.2	5.7	58.2
白一重	エクセルホワイト	0	0	11/6	74.0	4.7	12.4	5.7	46.7
白一重	リップルクリアホワイト3	0	0	11/9	78.8	4.7	10.3	5.7	44.2
薄赤一重	メロウローズ	0	0	10/26	73.1	5.0	9.4	6.3	50.5
ピンク一重	あすかの薫	1.7	0	10/27	75.3	5.2	10.3	6.8	54.5
ピンク一重	あすかの小桜	1.7	3.3	11/6	76.2	4.9	10.3	6.2	62.7
ピンク一重	つくしの春	1.7	5.0	11/6	96.3	5.4	11.2	7.8	67.7
ピンク覆輪	あすかの粧	0	0	11/13	82.4	5.4	12.2	5.5	74.6
黄緑一重	あずまの萌黄	4.2	6.3	10/31	70.7	4.3	10.7	6.4	48.4
黄緑一重	リップルグリーン	0	0	11/12	72.6	5.8	10.9	5.8	72.6
紫一重	ニュースモールバイオレット	0	1.7	11/8	79.3	5.3	9.8	6.5	66.2
白八重	ダイヤモンド	5.0	0	11/11	81.3	4.9	10.6	5.0	71.4

注) 葉先枯れは、生長点が潰れた株。節数はロゼット節を含む。輸数は老花を除き、長さ2cm以上の蕾を含む。



写真1 選定した品種